

科目名 (Subject)	会計学特講	荻柳	Topics in Accounting
単位数 (Credits)	2 単位	開講時期	後 期
担当教員名 (Name)	坂柳 明	(英字綴) Akira SAKAYANAGI	研究室番号 (Office) 423
Office Hours	金曜 15 : 30 ~ 16 : 00		

### 1. 授業目的・方法 (Course objective and method)

この授業では、財務会計分野及び監査論分野の研究を行うに当たって、研究論文を執筆する上で必要になる研究上の論点（以下の**2. 授業内容 (Course contents)**を参照）を紹介する。参加者には、研究上必要になる論点の発掘に当たって使用する文献について、問題提起を行ってもらう。

### 2. 授業内容 (Course contents)

#### [財務会計分野]

第 1～3 週：(1)：資産の取得原価の決定に当たって、資産の購入代価に「付随費用」を算入するかどうかについての議論と、(2)：取得原価の決定後にその資産をどのような形で投資するのか、という議論がどのように結びつくのか、あるいは、結びつかないのか、について議論する。

第 4～6 週：①：「本支店会計」において、(1)：支店の財務諸表と本店の財務諸表を合算することと、(2)：支店と本店が事業体として独立していることが結びつくのか、あるいは、結びつかないのか、②：親会社の子会社の意思決定機関を支配しているかどうかと、親会社が特定の資産の使用又は運用についての裁量の子会社の経営者に与えるかどうか、どのように関係しているか、あるいは関係していないのか、について議論する。

#### [監査論分野]

第 7～8 週：『資料版 金融商事法務』より入手した事例（例えば、2007 年 3 月期のアース製薬株式 11 会社の監査役会監査報告書や、2010 年 2 月期の株式会社ファミリーマートの監査役会監査報告書）を参照しながら、(1)：財務諸表監査及び監査役（会）監査についての類型分けの議論、及び(2)：その議論から派生する、「財務諸表監査及び監査役（会）監査のそれぞれの監査報告書の書き方の違い」についての議論はどこまで有効か、について議論する。

第 9～11 週：『監査事務所検査結果事例集』を題材にして、監査人が重要な虚偽表示を看過する原因が、特に「重要な虚偽表示リスクの識別及び評価」と「評価した重要な虚偽表示リスクに対応する監査人の手続」についての監査基準及び関連実務指針において、その監査人の裁量に委ねられる部分が多いことにあるかどうか、について議論する。

第 11～15 週：見積り監査と監査論上のゴーイング・コンサーン問題。

### 3. 使用教材 (Teaching materials)

上記の**2. 授業内容 (Course contents)**で示した[財務会計分野]の研究上の論点については、受講学生の理解度を把握しながら、適宜文献を紹介する。また、上記の**2. 授業内容 (Course contents)**で示した[監査論分野]の研究上の論点については、**2. 授業内容 (Course contents)**で挙げたものの他に、適宜事例や文献を紹介する。また、以下の文献も参照。

坂柳 明、『未確定事項の監査論』，中央経済社，2010 年。及びそこで参照されている文献及び事例。

坂柳 明，「継続企業の前提が疑わしい場合の監査人の対応—意見差控（意見不表明）を導く判断と財務諸表に与える影響に注目して—」，『会計』，第 182 巻第 2 号，2012 年 8 月。

坂柳 明，「継続企業の前提が疑わしい場合の監査人の対応—無限定適正意見以外の意見を表明する可能性に注目して—」，『商学討究』（小樽商科大学），第 63 巻第 2・3 合併号，2012 年 12 月。

坂柳 明，「継続企業の前提が疑わしい場合の監査人の対応—継続企業を前提とした財務諸表の作成が適切ではないと監査人が判断する状況に注目して(1)～(2)—」，『商学討究』（小樽商科大学），第 64 巻第 2・3 合併号，第 65 巻第 1 号，2013 年 12 月，2014 年 8 月。

坂柳 明，「継続企業の前提が疑わしい場合の監査人の対応—財務諸表の注記及び監査報告書の個々の記載内容に注目して(1)～(13)—」，『商学討究』（小樽商科大学），第 65 巻第 2・3 合併号，第 65 巻第 4 号，第 66 巻第 1 号，第 66 巻第 2・3 合併号，第 66 巻第 4 号，第 67 巻第 1 号，第 67 巻第 2・3 合併号，第 67 巻第 4 号，第 68 巻第 1 号，第 68

卷第2・3合併号, 第68巻第4号, 第69巻第1号, 第69巻第2・3合併号, 2014年12月, 2015年3月, 2015年7月, 2015年12月, 2016年3月, 2016年7月, 2016年12月, 2017年3月, 2017年7月, 2017年12月, 2018年3月, 2018年7月, 2018年12月.

#### 4. 成績評価の方法(Grading)

出席率：30%、（報告を含めた）授業への参加度：70%

#### 5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)

秀（100～90）：使用文献についてはほぼ完全に理解し、積極的に議論に参加している。

優（89～80）：使用文献については十分に理解している。

良（79～70）：使用文献についてはある程度理解している。

可（69～60）：使用文献について、最低限は理解している。

不可（59～0）：使用文献の理解が不十分である。

#### 6. 履修上の注意事項(Remarks)

積極的に授業に参加することを望みます。